

マンガに関する講演会、ワークショップの開催（9月25日、27日）

先月25日（火）、午前と午後の2回に渡って、アレスキー・アート・アカデミーのアレスキー・アギラール氏による「マンガの書き方」ワークショップが開催されました。また、27日（木）には、セオ・アーツ・アカデミーのラウル・ベラスケス氏による「北斎と漫画」講演会が行われました。

第一回目の「マンガの書き方」ワークショップには、UCABの学生や一般の参加者計50人が参加し、日本の現代文化への関心を深めていました。第二回目には、親子連れや学生など計55人が参加し、実際にペンを取ってマンガを書いて、四苦八苦しながらマンガに挑戦する姿が見られました。



アレスキー氏のワークショップの様子

「北斎と漫画」講演会では、北斎やその他の浮世絵師、江戸時代の技法や木版画といったものが、現代のマンガに与えた影響について話されました。浮世絵は、歌舞伎の宣伝や名所案内でも使われたように、ただの絵としてではなく社会にコミットするようなものであったため、大衆文化に受け入れられ、現代まで引き継がれてきたことを、ラウル氏が伝えました。その影響を受けた現代のマンガの魅力はまさに誰にでも理解されうるということであり、それゆえ、マンガの広大な想像力は、国の垣根を越えて世界中に広がっている、との言葉で、講演は締めくくられました。



ラウル氏の講演会の様子